

群 教 七	G05 - 04
	平 14.207 集

一人一人の表現意欲を高める 歌唱指導の工夫

—自分の歌声に着目する活動を取り入れて—

特別研修員 向井 孝子 (前橋市立桂萱中学校)

《研究の概要》

本研究は、自分の歌声に着目させる活動を取り入れて、自分の歌声を自分自身で育てていく意識をもたせることで、一人一人の歌唱に対する表現意欲を高めようとしたものである。自分で考えた歌声の努力点を意識して合唱練習を行いながら、音楽学習カードを活用し、継続的な声域調査の実施、「今日の歌声はどうだったか」の振り返り活動、生徒同士のアドバイス活動等の工夫を行った。

【キーワード：音楽 中 混声合唱 声域調査 学習カード 表現意欲】

主題設定の理由

中学校の音楽は、音楽活動の楽しさをよりたくさん体験することから、音楽に対する興味・関心を養い、将来の生活を音楽によって明るく豊かにする力を養うものでありたい。そのためには、器楽や合唱での表現活動や良い演奏を鑑賞することを、バランス良く体験することが大切である。中でも、だれもが持っている声という楽器で表現の多様性を追究することができる合唱において、歌う喜びを一人一人の生徒に味わわせたいと考える。生徒それぞれが持っている声には、その人でなければならぬもの、その人らしさがあるはずである。世界にただ一つの自分の歌声を意識して、歌う喜びと達成感を味わうことが、表現意欲を高めることにつながっていくのではないかと考えた。

生徒は、小学校でのさまざまな音楽活動において、友達と声を合わせる喜びや響き合うことのすばらしさを体験してきている。合唱活動が好きと答えた生徒は、ステージに立って発表した満足感や声が響き合った喜びを経験した時に、歌を歌って楽しいと感じたことがあると答えている。ステージで一生懸命歌った演奏に対して拍手をしてもらった満足感や喜び、なかなか響き合わなかった友だちとの声が美しく響き合った時の達成感や感動を経験することが、つぎへの表現意欲につながっていくと考えられる。

中学校の3年間は、人間の一生の中でも、体と心の成長が著しい時期である。特に中学1年生の男子は、変声期を迎える生徒が多いので音楽の授業への影響も大きい。変声期をきっかけにして声が出づらくなり、歌唱表現に対して抵抗感を持ったり、今までと違った自分の歌声にとまどいや不安を持ったりする生徒も多い。一方で、いつまでも変声期にならない生徒の中には、歌声に劣等感を抱き、歌わなくなる生徒がでてくる。そこで、授業の中で、変声期に対する正しい理解を深め、不安を取り除くと同時に、自分の歌声を継続的に見つめるようにしていきたい。女子の変声期は、響きが少しずつ大人っぽくなっていく程度のわかりにくい変化なので、自分ではなかなか気づきにくいですが、男子と同じように自分の歌声に着目させたい。

自分なりに歌声の努力目標を、具体的に持たせながら、成長とともに変化していく、あるいは、練習に伴い努力目標に近づいていく歌声に着目し、自分の歌声が「今日はどうだったか」を把握することで、自分で自分の歌声を育てていくという意識をもたせたい。自分自身の歌声

の努力目標をもち、それに向かって練習し少しでも近づくことができれば、満足感や達成感をもつことができ、それがさらなる表現意欲につながるものとする。毎時間の授業の中で、自分の歌声に着目して振り返り、音楽学習カードに歌声の状態を記録し、個々のつまずきや不安に対しては教師が細かい支援を行っていくことが重要であると考えた。

以上のことから、合唱活動において、音楽学習カードを使って自分の歌声に着目する活動を取り入れれば、自分の歌声を目標をもって育てていく意識をもたせることができ、一人一人の表現意欲が高まると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

合唱活動において、自分の歌声に着目した活動を取り入れていけば、自分の歌声を目標をもって育てていくという意識をもたせることができ、生徒一人一人の歌唱に対する表現意欲を高めることができることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 自分の声域調べに取り組み、自分の歌声の状態と変化の一端を知ることは、歌唱表現の向上を目指して努力する意欲付けになるであろう。
- 2 歌声の努力点を設けて、「今日の歌声はどうだったか」について振り返り、それを記録していくことは、表現意欲を高めることになるであろう。
- 3 二人組で歌声を聴きお互いにアドバイスをし合うことは、自分の歌声のよさや課題を客観的に知ることができ、努力点に向かって練習を続ける意欲付けになるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 「表現意欲が高まる」とは

本研究では、「一人一人の表現意欲が高まる」を次のようにとらえた。歌唱表現することに対して意欲を持つ第一歩は、合唱曲等を聴いたときに、自分で歌ってみたいと思うことである。身近な先輩たちの合唱や模範の CD 等の演奏を聴いて感動し「自分であんな風に、あのような声で歌ってみたい。」と思うことが、表現意欲の最初ととらえた。

次に、自分で目指す声为目标としてもち、その声に近づくために自分なりの努力点を設定する。そして、練習することで、一段階でも努力目標に近づけた時に、満足感や達成感を得ることができ、さらに上を目指そうとする意欲が生まれる。この状態を表現意欲が高まると考えた。

(2) 「自分の歌声に着目する活動」とは

ア 声域の変化を自分自身で記録していく

自分の声が、今どうなっているのかを知るために、授業中に各自が声域調査を実施し、結果を音楽学習カードに記録する。これを、年間3～4回実施する。これによって、自分の歌声の声域の変化を、ある程度知ることができる。変声期の男子生徒にとっては、成長とともに声に変化していくのを実感できる。

声域調査は次のような方法で行う。学習カードに大譜表とピアノの鍵盤図（鍵盤に番号が

振ってあるもの)を印刷しておく。「次は、何番の鍵盤の音」と教師が言いながら弾くピアノの音を聴いて、生徒は同じ高さの歌声を出していく。各自が、学習カードの鍵盤の番号を頼りに、歌声がどこまで出せたかを確認し、歌声が出た部分の鍵盤に色を塗る。男女別に行い、15分程度で実施する。

イ 歌声の努力点をもつ

身近な先輩の合唱曲や模範となる独唱や重唱、合唱等の演奏を聴かせることで、自分で目指す歌声をもち、今現在の歌声の努力点を自分自身で考える。高い声の方が出しやすい変声前の男子生徒や、思うように声を出ることができない変声中の生徒には、それぞれその時の状態によって努力点を考えるよう支援する。

1時間の授業ごとに、「今日の自分の歌声の状態はどうだったか、変化はあったか。」「自分で設定した歌声の努力点に向かっての取組はどうだったか。」を記入することで1時間の自分自身の活動を振り返るようにする。つまりきやうまくいかないこと等が、述べられていたときには、次回の授業の中でよりよい支援ができるように教師が配慮していく。

ウ 生徒同士のアドバイス活動を取り入れる

歌声に変化があったかどうか、歌う姿勢、表情等を、自分で客観的に把握するのは大変難しいことである。そこで、自分で立てた歌声の努力点に向かって練習した成果を、二人組になってお互いに聴きあい、その後の練習に生かせるようにする。このとき、良くなっている点と、こうしたらもっと良くなる点を必ず見付けてアドバイスしてあげるように、事前に確認しておく。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

(1) 実践計画と抽出生徒

学年	前橋市立桂萱中学校 第1学年 35名	実施時期・時数	9月～10月・9時間
題材	・強弱の働きによる曲想の変化を感じ取り、自分の声や全体の響きに気をつけて合唱しよう。	教材	混声三部合唱 「Tomorrow」 混声三部合唱 「夏の日の贈り物」
抽出生徒	A 男 ・1学期は既習曲等を大きな声で歌っていたが、夏休みあけには変声前期に入り、声を出しづらい状態になってきたため、歌唱表現に対して消極的になってきている。そこで、表現意欲を失わないような支援をしたい。 B 子 ・ソプラノやアルトリコーダー等の器楽表現は好きで演奏技能も身につけているが、歌唱表現については、声量が少ないためか歌声に自信が持てない。そこで、自分の歌声に自信を持てるよう支援をしたい。		

(2) 検証計画

項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	自分の歌声の声域を調べることは今現在の自分自身の歌声の一端を知ることであり、声域調べに取り組むことで、自分の声に関心を持ち、さらに歌唱表現の向上を目指して努力する意欲付けになったか。	・学習カードの記述 ・行動観察 ・演奏観察
見通し2	自分の現在の歌声についての努力点を設けて、さらに毎時間の授業の中で、「今日の自分の歌声はどうだったか。」について振り返りそれを記録していくことは、合唱練習の中で自分の目標が明確になり、意欲的に合唱練習に取り組むことができたか。	・学習カードの記述 ・行動観察 ・演奏観察
見通し3	二人組でお互いの歌声を聴き合い、歌声についてアドバイスし合うことは、自分の歌声や歌う姿勢等について客観的に知ることができ、努力点に向かって練習をする意欲付けになったか。	・学習カードの記述 ・行動観察 ・演奏観察

研究の展開

1 題材および題材の考察

題 材	教 材
・強弱の働きによる曲想の変化を感じ取り、自分の声や全体の響きに気を付けて合唱しよう。	・夏の日の贈り物(混声二部合唱) ・Tomorrow (混声三部合唱)
<p>本題材は、強弱の働きによる曲想の変化とその効果に気づかせながら、姿勢や、呼吸法、発声など、歌唱表現の基礎的な技能を育て、より美しい響きの混声三部合唱に取り組むことを目指している。強弱の働きを理解して曲想の変化を感じ取ることは、表現の工夫を考えるための一つのよりどころになる。また、感じ取った曲想をより美しく歌唱表現するためには、基本的な歌唱表現の技能が必要になってくる。曲想の変化を感じ取り、自分の声や全体の響きに気を付けて合唱することは、歌唱表現の基礎的な技能の習得や表現の工夫を考えることにつながり、混声三部合唱の豊かな響きを作り上げる力を身につけていく上で大きな意義がある。</p>	

2 目標および評価規準

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の声や全体の響きを感じながら混声三部合唱ができる、基礎的な表現の技能を育てる。 強弱の働きによる曲想の変化を生かして、混声三部合唱をすることができる。 			
評価規準	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った発声の方法を身に付けようとする。 曲の雰囲気に適した発声で意欲的に合唱練習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 強弱の変化による表現の効果を感じ取ることができる。 強弱の働きによる曲想の変化や全体の響きを感じて、曲想に合った合唱表現を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 声域に合った響きのある発声の仕方を身に付けている。 姿勢や、呼吸法に気を付けて歌うことができる。 強弱の働きによる曲想の変化を生かしながら合唱することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のクラスの演奏や模範演奏等から強弱の働きによる曲想の変化を聴き取ることができる。
学習活動における具体的評価規準	<p>自分の声に関心を持ち、すすんで自分に合った発声の方法を身に付けようとしている。</p> <p>曲想に合った発声の工夫に取り組もうとしている。</p>	<p>歌詞の内容や旋律の動きから曲想を感じ、曲にふさしい強弱の変化を生かして、表現を工夫している。</p>	<p>姿勢・呼吸・響きに気を付けて歌うことができる。</p> <p>自分の担当する旋律を正確に表現することができる。</p> <p>曲想にふさわしい強弱で表現することができる。</p>	<p>友だちの歌声や演奏を聴いて、その特徴を聴き取ることができる。</p> <p>自分たちの録音や他のクラスの演奏等を聴いて、楽曲にふさわしい強弱による表現の工夫や混声三部合唱の響きを聴き取ることができる。</p>

3 指導計画 (全9時間予定)

過程	時間	学習活動	支援 および 指導上の留意点	・評価の観点と方法() ・十分に満足できると判断できるキーワード()	
第1次 自分をみつめ課題を把握する	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「Tomorrow」と「夏の日の贈り物」の範唱を聴く。 ・感じたことを発表する。 <p style="text-align: center;">見通し 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの音を頼りに自分の声域を調べる。 ・自分の声のでる範囲を学習カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱のCDは、なるべく中学生が歌っているものを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 声域調べに取り組み、現在の歌声の状態を知ろうとしている。(行動観察・学習カード) 正しく知るために、調べ方を工夫している。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・パート別のCDを聴き自分のパートの音を知る。 ・自分の現在の歌声の声域では良く出せない音を楽譜にチェックする。 ・いろいろな歌声の曲を聴き声種を知る。 <p style="text-align: center;">見通し 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌声の努力点を考えてカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート別のCDはなるべく中学生の声のものを準備する。 ・楽譜を読むのが苦手な生徒には、声域調査の結果を基によく出せない音を、一緒にチェックする。 ・いろいろな歌声の種類を聴かせる。独唱(ソプラノ・アルト・バリトン)や重唱、演奏家以外のものとして先輩たちの演奏もきかせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ア 自分の課題を考え歌声の努力点をもつことができる。(行動観察・学習カード) 自分の課題に合った的確な表現。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のパートの音を覚えて歌えるようにする。 ・他のパートを聴きながら、(混声三部を意識しながら)自分のパートを歌えるようにする。 ・歌詞や曲の雰囲気を考えて練習に生かすようにする。 ・自分の歌声の努力点について、少しでも向上するよう心がけてパート練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変声期の男子生徒をまとめるようにして、できる限り周囲に気兼ねなく声が出せるような配慮をする。 ・毎時間提出させる学習カードの記述から生徒の努力した点やつまずき等を把握し、つぎの授業での指導に生かす。思うように歌えていない生徒には、パート練習の時間等を利用し個人的に支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ウ 呼吸や姿勢、響きを意識して練習している(演奏観察・学習カード) 美しい響き。 ウ 自分のパートを正しく歌える。(演奏観察・学習カード) 他のパートを聴きながら。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想にふさわしい強弱の変化を感じ取りながら合唱できるようにする。 <p style="text-align: center;">見通し 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人組になり、お互いに歌を聴き合い歌声の特徴を教えてあげる。(毎時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌声を客観的にとらえるのは難しいので、友達同士でお互いの歌声の特徴を聴き合い、必ずよい点を入れて、アドバイスするところを見つけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ 全体の響きを意識した曲に合った強弱の変化による表現ができる。歌詞の意味と強弱の変化の関係。 エ 友達の歌声のよい点等を聴き取りアドバイスできる。(行動観察・カード) よりの確かなアドバイス。 		

課題解決に向けて追究する	見通し 2	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でがんばったこと自分の歌声の努力点について良かったことや悩み等を学習カードに記入する。 <p>(毎時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が書いたカードの記録を読みポイントを絞った実践しやすいアドバイスや励ましの言葉を書き込んでから返すようにする。 なかなか向上できないことが考えられるが、少しの上達でも気付いたらほめるようにする。 	ア 歌声についての悩みや良くなった点等を学習カードに記入できる。 (学習カード・行動観察) より多くの向上点。	
		<ul style="list-style-type: none"> 録音した自分たちの合唱を鑑賞し、全体の響きやよりよい曲想表現を話し合う。 意見を出し合いそれを練習に生かしながらよりよい演奏を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ用意した大きな歌詞カードに、生徒の意見を直接書き込みながら良い意見をクラス全体で共有できるようにする。 話し合いをもとに練習をして、少なくとも2回は録音して鑑賞ができるようにする。 	イ 全体の響きや曲に合った強弱の変化による表現を工夫することができる。(発言・演奏観察) 気付いたことを生かした演奏。	
第3次 活動全体を振り返りまとめる	合唱コンクール	見通し 1	<ul style="list-style-type: none"> ピアノの音を頼りに自分の声域を調べる。 前回までのものと比べて、声域の変化についての感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱練習の成果、および現在の自分の歌声を知る一つの手がかりとして声域を調べることを確認する。 	ア 歌声の努力点に向かって練習してきた成果を確かめる一つの手だてと考へて、声域調査に取り組むことができる。 (行動観察・学習カード) 自分の声域をより正しく知ろうとする。
	1	見通し 2	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのクラスの合唱コンクールでの録音を聴いて感想等を発表する。 		エ 強弱による表現の工夫や合唱の響きを聴き取ることができる。 (発言・学習カード・行動観察) たくさんの表現の工夫に気づく。
		見通し 2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の今の歌声を把握しこの合唱練習中に良かった所を自分で見付ける。 これまでの合唱練習とコンクールを振り返り、カードに合唱コンクールの感想と歌声の努力点についてのまとめを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身のよい点を見付けられない生徒には、支援しながらよい点を見つけることを手伝う。 次の歌唱教材や来年の合唱コンクールへの取組に、前向きで意欲をもてるように配慮し、今回の取組に対して励ましの言葉かけをする。 	ア 自分の歌声の努力点についての取組を振り返り前向きにまとめることができる。 (学習カード・行動観察) たくさんの向上点に気づく。

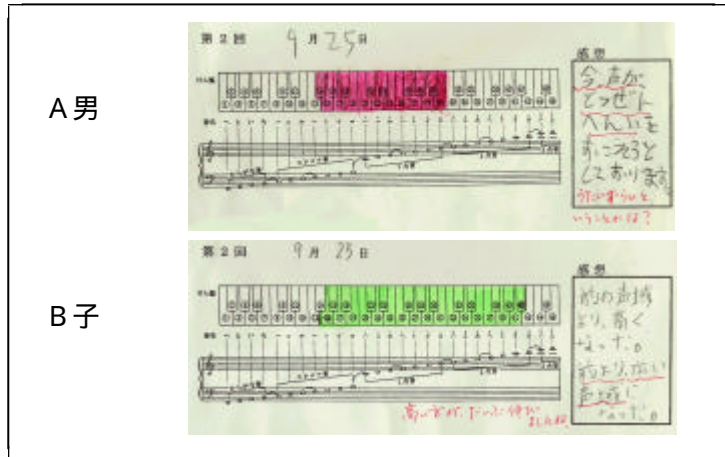
研究の結果と考察

1 声域調べで自分の歌声の出る範囲を知るとは、自分の歌声の状態の一端を知ることになり、さらに歌唱表現の向上を目指して努力する意欲付けになったか

声域調べは、1学期の終わりころの7月16日、2学期に入り合唱曲の練習に入るころの9月25日、そして、本題材のまとめの段階である11月14日に実施した。A男は、入学したころは、元気良く大きな声で校歌や既習曲を歌う場面が見られたので、歌うことが好きであると考えられるが、夏休みが終わった頃より変声期に入り、楽しそうに歌う姿が見られなくなっていた。自分の声は練習によって、出る範囲を広げることができることを説明してから調査した

ところ、A男は自分の声を試すような感覚で、友達と競い合いながら楽しそうに声を出し、声域調査をする様子が見られた。B子は声量が少なく、歌う時の表情もあまり明るくないが、声域調査の取り組みは、ゲームに取り組むような感じで気軽に声を出す様子が見られた。多くの生徒についていえることは、1回目の声域調査では、「思ったよりも自分の声の範囲が広くて意外だ。」という驚きの反応が多かったこと、2回、3回と回数を重ねるごとに、「前の時よりも声域が広がっているといいな。」という気持ちが強くなり、意欲的に声を出し、合唱練習の中でも積極的に声を出す姿がみられたということである。声域調査で客観的に自分の歌声の範囲を調べたことは、自分自身の声の状態の一端を知ることができ、その後の歌唱練習に積極的に取り組む意識に変わってきているので、表現意欲を高める上で有効であったといえる。

資料1 音楽学習カード 声域調査の抜粋



2 「歌声の努力点」を設けて自分の歌声を目標に近づけるように練習に取り組み、「今日の歌声はどうだったか」について振り返ることは、表現意欲を高めるのに有効だったか

本研究では、自分の歌声に着目するために、自分なりの歌声の努力目標を「歌声の努力点」という形で生徒たちが設定し、その努力点に向かって練習をして、毎時間の授業のまとめとして、音楽学習カードに「今日の歌声について」の記録をしていくようにした。A男は、「低い声を響かせる」という努力点を設定し練習に取り組み、10/25の記述では、「すこしいい響きが出た。」と書いている。努力点に対するまとめの感想では、資料2のように、来年の自分の歌声に対して、もっと低い声が出せるだろうという期待を込めた記述がみられた。

B子は、「正しい音程できれいな声で歌う。」という努力点を設定し、練習に取り組み、10/16の記述では、「前回よりもずっときれいな声で歌えた。」と書いている。努力点のまとめの感想では、資料2のように、声域が広がったことから歌声に自信を持てたと記述している。

以上のことから、「歌声の努力点」を設定し、その努力点に向かって練習して、今日の自分の歌声はどうだったかを振り返ることで、練習した結果として自分の歌声がどのように変わったかを、意識してとらえることができた。そして、歌声がきれいになったとか、自分の歌声にいい響きを感じることができたことは、表現意欲を高めるのに有効だったと考える。

資料2 努力点と歌声についての記録

	A男の記録	B子の記録
努力点	低い声を響かせる	正しい音程できれいな声で歌う
10/2	がらがら声になった。	少しキーキー声なのできれいにしたい。
10/9	のどに何か詰まった感じ。	鼻に残る声なのできれいにしたい。
10/16	あまり変わった様子はない。	前回よりもずっときれいな声で歌えた。
10/25	すこしいい響きが出た。	音程がしっかりしないので気を付けたい。
まとめの感想	まあまあ低い声が出せた。来年になればもっと低い声が出せると思う。	前よりも声域が広がり高い声も自信がもてた。

3 二人で歌声を聴き合いお互いにアドバイスし合うことは、歌声の努力点に向かって練習する意欲付けに有効であったか

課題解決のために追究する学習過程の中で、二人組を作りお互いの歌声について総合的なアドバイスをする活動場面を設定した。いつも練習している同じパートの中で、隣の席の友達と二人組になり、歌う方と聴く方に分かれて行った。最初の反応は、「友達に聴かれるのはいやだなー。」という雰囲気だったが、始めてみた所、友達にアドバイスしてあげることを見付けようという真剣な表情で活動をしていた。「教室のどの場所で歌っても良い。」との指示で、なるべく自分たちの声が聴き取りやすい場所を自主的に探して、教室のいろいろな場所に移動し、聴き合う方法も工夫していた。B子は、自分の歌声をほめてもらえたので、気持ちよくアドバイスが受けられたようである。音量はまだ思うように出せないが、歌声の響きについては少し自信が出たようで、授業後の感想には「友達にアドバイスをもらってとても助かった。」とあり、B子がカードを提出した際に「がんばったね。」と声かけをすると、明るく「はい。」と答えていた。A男は、アドバイスをされた後で、自分の声に少しだが響きを感じる事ができた。資料3は、A男とB子がもらったアドバイスと、授業後の感想の記述である。

資料3 友だちからのアドバイス

	A男とB子がもらった アドバイス	授業感想
A男	<ul style="list-style-type: none"> ・口をもうちょっと大きく開けて、うたった方がいいと思う。 ・高い声だから低い声が出しづらいかもしれないけど、がんばってください。 ・指揮者を見ながら歌い積極的に声を出せば、まわりの人と一緒に良く歌えると思う。 ・姿勢がすごく良かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをされて自分の悪いところがわかって良かった。 ・少し響きが出た。
B子	<ul style="list-style-type: none"> ・口の開け方が小さいが、がんばっていた。 ・歌声は澄んでいてとてもきれい、歌声はとてもよかったです。Very goodsinger ! ・声が小さいので、もっと音量を付けて欲しいです。大きな声を出して欲しいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達にアドバイスをもらってとても助かった。 ・音程がしっかりしないので気を付けたい。

以上のことから、二人で歌声を聴き合いお互いにアドバイスし合うことは、歌声の努力点に向かって練習する意欲付けに有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

研究の結果、次のような成果と課題が明らかになった。

継続的に声域調査を行う活動からは、予想以上の反応が見られた。生まれて初めての声域調査で自分の声が出る範囲が意外に広いことに気付き、練習すればもっと声を出せると感じた生徒が多かったことが、学習力 - ドの記述から分かる。また、変声中の男子生徒の一人は、「自分の声域をうまく使って、お腹から歌うことができた。」と書いており、変声期の男子生徒にとっても、声域調査で自分の歌声の一端を知ったことが、その後の表現活動への意欲につながったと考えられる。

合唱練習の場面において、合唱曲を仕上げるのが先になり、個々の生徒に十分目を向けていなかったことを反省し、それぞれの生徒の表現意欲を高めることに取り組んでみた。生徒の表現活動への願いや取組の状況、表現技能の向上の様子等は、以前よりも把握することができたと思う。ただ、合唱曲を仕上げていく過程の中で、一人一人の生徒を生かしていく工夫がたりなかったと感じている。生徒それぞれの表現意欲の向上が、クラス合唱の表現力の向上になり、更に一人一人の生徒の歌唱表現にフィードバックされることを、生徒が実感としてとらえられるような工夫をしていきたい。

参考文献 ・新学習指導要領における評価規準参考事例集 群馬県教育委員会出版（2003）